

東日本大震災復興支援プロジェクト

第23回活動報告



刈り取った雑草を前に、したり顔の参加者。

多くの犠牲者を出した野蒜^{のびる}小学校。
仮設校舎を訪れ、美化活動に取り組みました。

今年度2回目（通算23回目）となる活動を5月25日、職員5人が参加して、宮城県東松島市で実施しました。

この日は、市立野蒜小学校（仮設校舎）周辺の美化活動に取り組み、機械を使った草刈りなどで汗を流したほか、鶴岡の味覚を味わってもらおうと、当日朝に収穫した孟宗を手渡しました。

震災当時、小学校の体育館は地区住民の避難場所に指定されており、大地震発生直後には多くの住民が安全を求めて避難して来ましたが、そこにも大津波が押し寄せ、逃げ場を失った多くの人達が体育館の中で犠牲になっています。

地元の方にお話を伺うと「校庭の遺体が忘れられない」など現実とは思えない体験をお聞きます。また、この小学校は遺体の仮安置所としても利用され、100人を超える住民の遺体が運び込まれるという、東松島市の方々にとっては特別な場所。校舎正面に掛けられた壁時計は、津波が到達した午後3時52分で

今も止まったままです。児童達は仮設校舎で明るく生活していますが、惨劇で目にした光景や悲鳴、轟音は、今も頭から離れることはありません。

仮設校舎の周辺は、児童達に寄り添うように、色とりどりの花々に囲まれていました。

〔参加者〕鈴木大亮（総合戦略室）、佐藤浩市（経理システム課）、福原英喜（農業支援室）、大川文也（大泉支所）、阿部真（北支所）
〔次回予定〕6月23日（日）…宮城県東松島市。内容は未定です。



高台への集団移転計画に沿って、近隣の山を開拓する工事もちこちで進んでいます。